

第十二章 四国・九州地方の塔

第 96 番 得度山切幡寺二重塔—高野山真言宗—

徳島県阿波郡市場町切幡

二層が矩形の珍しい大塔が、四国霊場第 10 番札所切幡寺にあると聞き、早速訪れてみました。切幡寺へは、鴨島駅からバスに乗り、八幡で下車し、門前町を抜けると仁王門があり、さらに石段を登ること 330 段、20 分ほどで、本堂の前に着きます。さらに上方に二重の大塔があります。

寺伝によれば、弘法大師が巡錫の折、少女が織りかけの機を切って大師に布施し、千手観音のために一寺の建立を願った。大師は一夜のうちに本堂を建て、千手観音を刻んで本尊にし、少女に灌頂をして得度させたところ、たちまち観音の姿になったので、寺号を得度山灌頂院切幡寺というようになったといわれています。

大塔は方形の二重塔で、建物の心柱に刻まれた銘文などから、元和年間（1616～24）に徳川二代将軍秀忠が、大阪の住吉大社の神宮寺に寄進したものと考えられていました。しかしながら、平成の大修理での調査の結果、それより前の慶長十二年（1607）に建てられた記録が、大阪住吉大社で見つかったのです。大塔は、建立の九年前にこの世を去った父、秀吉の菩提を弔うため、息子・豊臣秀頼が建立したものだったのです。明治初年の廃仏毀釈で、明治六年（1873）にこの地方の大工が住吉大社神宮寺の西塔を解体して持ち帰り、建立したものです。一辺 9.98m・総高さ 24.2m の大塔です。



第 97 番 霊鷲山鶴林寺三重塔—高野山真言宗—

徳島県勝浦郡勝浦町

標高 570m の鶴林山の山頂にあり、遍路道の難所として知られる四国霊場第二十番札所鶴林寺に、県指定文化財の三重塔があると知り、訪れました。今回は、難所の遍路道を避けて、新しくできたドライブウェイを車で走り、20分ほどで門前に着きました。

寺伝によれば、弘法大師が寺を開き修行中、老杉の梢に雌雄二羽の鶴に守られた黄金の菩薩を発見し、地藏菩薩を刻み、胎内に黄金の菩薩を納め本尊としたので、寺名を霊鷲山鶴林寺としたといわれています。その後、三好氏、蜂須賀氏等も寺を保護しました。

運慶作と伝えられる仁王像のある仁王門をくぐり、石段を右に登ると本堂があり、その右手に文政十年（1827）

に建立された三重塔があります。三重塔は、おおむね和様で、装飾過多のきらいはありますが、軒の出は深く、端は軽快に反りを打っています。一辺 5.33m・総高さ 23m の美しい塔です。



第 98 番 熊野山石手寺三重塔—真言宗豊山派—

愛媛県松山市石手

四国で造られた三重塔で、唯一重要文化財に指定されている塔が、松山市の四国霊場第 51 番札所にあると知り、出向いていきました。石手寺は、松山駅からバスに乗り、25 分ほどで石手寺前に着きます。土産店の並ぶ参道を進むと、国宝の仁王門があり、それをくぐると、正面に本堂、右手に三重塔があります。

寺伝によれば、神亀五年（728）聖武天皇の勅願で、伊予大領越智玉純が開創し、行基菩薩が安養寺と名づけ、薬師如来を刻み本尊とし、後に弘法大師が法相宗から真言宗に改宗しました。その後、寛平四年（892）、城主河野家の子息の左手が開かず、安養寺の住職に祈禱を頼み左手が開いたとき、手から「衛門三郎再来」と書かれた小石が転がり落ちたため、石手寺と改められたと伝えられています。

現存する三重塔は、三代目で、仁王門と同時代である文保 2 年（1318）に建立されたものと考えられています。一辺 4.86m・総高さ 23.88m、本瓦葺き、和様の安定感のある落ち着いた塔であります。



第 99 番 本吉山清水寺三重塔—天台宗—

福岡県山門郡瀬高町

九州で一番古い三重塔と雪舟作の庭園が、福岡県瀬高町の清水寺にあることを知り、早速出向いてみました。瀬高駅からバスに乗り、10分ほどで清水寺のある山麓の集落に着きます。しばらく歩くと、総門があり石段を登ったところに入母屋二層の立派な山門があります。さらに石段を登ると本殿があり、右上に三重塔があります。

歴史は、唐から帰った最澄が、清水山に立ち上る靈気を感じて寺を開いたと伝えられています。戦国時代、竜造寺隆信の戦乱で焼失しましたが、柳川藩主・立花左近将監が藩の祈願所として再興し、栄えてきました。

三重塔は、天保七年（1836）に柳川藩主・領民が一文勧進して建てたもので、一辺 6.73m・総高さ 26.79m のずんぐりむっくりですが、ボリューム感のある塔です。



宮大工のざれごと⑫関東と関西の違い

関東と関西と比較して大工道具で形の違ったものに、玄翁（ゲンノウ）があります。ゲンノウとは、一般にはカナヅチとかトンカチと呼ばれているものです。ゲンノウには釘を叩く面が二つありますが、関東はどちらの面も同じような形をしています。これに対して、関西のゲンノウは叩く面の片方を細く絞っています。釘の頭を叩き締める時に便利だからです。また、柱の間の長さの測り方が違ってきます。柱と柱の間を「一間」と言いますが、関東では日本の柱の芯から芯の間で測ります。ところが関西では、二本の柱の向き合った面から面までの間を測ります。柱と柱の間隔は、関東より関西の方が大きいこととなります。畳でも関西の「京間」と関東の「田舎間」では、京間の方が大きいんです。最近紛らわしい「狭間」という一段と小さいものが出てきていますので注意してください。

第100番 紫雲山龍源寺三重塔—浄土宗知恩院派—

大分県臼杵市平清水

明治時代以前に建てられた塔で、九州地方に現存しているのは二塔で、そのうちの最も南に建つ塔が、大分県臼杵市にあることを知り、出向いていきました。何故か熊本・宮崎・鹿児島には、明治時代以前の仏塔の存在が見つかりません。天孫降臨伝説の神道の強さを物語っているといえるのかもしれませんが。臼杵市といえば何ととっても、平安時代から鎌倉時代にかけて彫られた大日如来を始めとする石仏がすばらしい存在である。三重塔は、内部に聖徳太子像を安置し、太子塔と呼ばれ、県指定文化財である。寺の名は、龍源寺と称し、臼杵駅から歩いて20分ぐらいの川の近くにあり、浄土宗知恩院



の末寺であります。歴史は、当時のこの地区の領主・稲葉左京貞道公が、円誉上人に高德を感じ、龍が淵に慶長五年（1600）に、お寺を創ったのが始まりです。享保年間（1716～36）に、町内の工匠が聖徳太子像を寄進し、太子を大工の日本の祖として祀り、寺内に小堂が建てられました。しかし、以後次第に堂が荒廃し、それを嘆いた住職・蒼誉上人が町内の名工高橋団内に相談し、塔を建てることにしました。

三重塔は、高橋団内が構想し、塔を建てるに当たって奈良・京都の古寺を巡り、理想的な塔にしようと考えました。団内の高弟坂本莊右衛門が太子講の工人たちとともに、10年間の歳月を費やし、安政五年（1858）にようやく竣工しました。一辺3.70m・総高さ21.8mで、初層の四隅で邪鬼が軒を支えたおおむね和様の塔である。寺は西南戦争で焼失したが、幸いにも山門と三重塔が焼失を免れ現在に至っている。

宮大工の知識—XII「左甚五郎」考

彫刻の世界で日本一有名な人物と言え、左甚五郎に止めを刺すでしょう。だが、「左甚五郎作」と伝わる彫刻が数多く残っていること以外には、本人の人物像とか経歴について知られていません。「甚五郎作」といわれる江戸時代の彫刻は、北は福島から南は愛媛・大分まで、100件近くの数にのぼります。生涯を旅仕事に費やしたとしても、一人の職人がこれほどの彫刻を残すことは、おそらく無理でしょう。だからといって存在まで架空といって否定できないのが、甚五郎伝説の面白さといえるでしょう。

桃山から江戸の初期、寺社建築では、後の大工彫刻と呼ばれる装飾が盛んに取り入れられました。それまでは宮大工自身が波や雲などの模様を彫る程度だったものが、次第に神獣や花鳥風月、二十四孝など手の込んだ題材となり、扱う数も増えていきました。そのため、これらの装飾部分を専門に担当する職能集団として宮大工から派生したのが、「宮彫り師」たちです。

一方なぜこの時代に、このような彫刻が、はやっていったのでしょうか。大工彫刻は、政治の手段であったことに注目しなければなりません。日光東照宮を見れば分かる通り、あの豪華さは権威の誇示にほかなりません。龍や麒麟など想像上の動物などは権威付けにもってこいですし、二十四孝のような儒教的な図柄には、社会教育のような効果もあります。また、江戸期の社会は、現世利益重視ですから、言葉だけで宗教を説いても、なかなか信じません。それよりも彫り物で驚かせる方が、よほど効果があるわけです。現代の広告手法と同じです。「どうせなら、もうひと御利益をつけよう」ということで、どんどん彫刻が生まれ、その中で最高に素晴らしい彫刻が、「甚五郎作」として残っていったのでしょう。

しかしながら、宮彫り師は、花鳥風月で派手な職人だったのですが、身分は高くなく、棟札にもほとんど名前が残りませんでした。即ち「左甚五郎」は、腕利きだが、名もない職人たちの代名詞として使われていったものなのです。

「左 甚五郎作」の彫刻と所在場所

彫刻の名称	所有寺社名	寺社の住所
「隠れ三猿」	如法寺	福島県西会津町
「眠り猫」	日光東照宮	栃木県日光市山内
「如意輪観音」	浮島観音	群馬県利根村
「葡萄に栗鼠」	酒列磯前神社	茨城県ひたちなか市
「三番獅子」	善明寺	埼玉県児玉町
「つなぎの龍」	秩父神社	埼玉県秩父市
「子育ての虎」	同上	同上
「野荒しの虎」	安楽寺	埼玉県吉見町
「釘づけの龍」	大門神社	埼玉県浦和市
「釘づけの龍」	国昌寺	埼玉県浦和市
「目つぶしの鴨」	東福寺	千葉県流山市
「白蛇」	神野寺	千葉県君津市
「般若面」	誕生寺	千葉県天津小湊町
「恵比寿像」	宝田神社	東京都中央区
「唐門の龍」	上野東照宮	東京都台東区
「阿吽の龍」	米倉寺	神奈川県中井町
「牡丹」	宝蔵院	静岡県天城湯ヶ島
「龍」	龍潭寺	静岡県引佐町
「野荒しの鶴」	長国寺	長野県長野市
「富士えびす」	富士浅間神社	山梨県富士吉田市
「水噴きの龍」	桃原寺	富山県魚津市
「駆け出しの龍」	誠照寺	福井県鯖江市
「鶯と鯉」	久津八幡神社	岐阜県萩原町
「猿」	浄願寺	岐阜県丹玉川村
「総門の龍」	龍門寺	岐阜県七宗町
「神馬」	水無神社	岐阜県宮村
「獅子門」	定光寺	愛知県瀬戸市
「関羽と張飛」	曳山「狸々丸」	滋賀県長浜市
「龍」	園城寺	滋賀県大津市
「天女」	紀州東照宮	和歌山県和歌山市
「緋鯉真鯉」	同上	同上
「眠り猫」	同上	同上
「鶴と亀」	同上	同上
「龍」	同上	同上
「真向きの龍」	成相寺	京都府宮津市
「二羽の鳩」	山鉾「八幡山」	京都市三条町
「龍」	方広寺	京都市東山区
「目貫の猿」	岩清水八幡宮	京都府八幡市
「力士」	円教寺	兵庫県姫路市
「波に兎」	西福寺	鳥取県船岡町
「恵比寿大黒」	出雲大社	鳥根県大社町
「龍」	円明寺	愛媛県松山市
「天邪鬼」	愛染堂	大分県竹田市